

令和8年、2026年が始まりました。そして、令和7年度の仕上げの3学期のスタートです。何回も言います。少々遅れても問題はない。スタートするだけだ。必ず走れる。絶対に走りきれぬ。

冬休み中にも、弓道部男子の全国選抜大会での3位、日本学生科学賞での入選一等、ハンドボール部女子の県大会3位など南高生の素晴らしい活躍が多く見られました。皆さんと喜びを分かち合いたいと思います。

さて、今年は、十二支で言うと午年、もう少し詳しく、十干（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）と十二支（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）とを組み合わせた言い方では、「甲乙丙丁」の「丙（へい）」の字に「午」で「ひのえうま」「丙午（へいご）」の年です。

「丙（ひのえ）」は、十干の3番目で、太陽が真上に昇ったような強いエネルギー・物事が形となり外に現れていく段階を表します。燃え盛る炎のように、明るく、勢いがあり、発展していく力が強いのが特徴とされています。

「午（うま）」は十二支の7番目で、一年の中でも陽気が最も高まる時期を象徴しています。活気・情熱・強い行動力を意味し、物事が一気に動き出すタイミングとされています。

「丙」と「午」が組み合わさる 丙午（ひのえうま）の年は、勢い・情熱・行動力が高まり、物事が大きく動き出す年といったところでしょうか。

しかし、勢いに任せてばかりいると、周りが見えなくなったり、思わぬトラブルにつながったりすることもあります。かつては、「力が強すぎて制御できない」とか「丙午の年は火災が多い」などと考えられた時期もあるようです。

自分の気持ちが前に進もうとするときこそ、少し立ち止まって周囲を見渡す冷静さを持つこと、すなわち適切に「自らを律する」ことをあわせて意識することが、大いなる飛躍につながるポイントかもしれません。南高生の本領発揮を期待します。

先ほども言いましたが、3学期は、令和7年度の仕上げの学期です。3年生にとっては、高校生活の仕上げでもあります。アンテナを高く張って、自分自身や周囲の変化に敏感になりましょう。そして、困っている人がいたら手を差し伸べる人になりましょう。いつものことですが、一人ひとりのいのち、健康を大切にしましょう。

皆さんの3学期が充実したものになることを期待して、式辞といたします。